

授業づくり規準（生活科）

P（構想）

力 要素	学習指導力 (授業における姿勢や指導方法等、 各教科等共通の授業づくりの力)	教科指導力 (生活科の内容に関わる授業づくりの力)
児童の実態把握	<ul style="list-style-type: none"> 児童の発達の段階を踏まえた上で、生活体験や学習経験は児童によって異なることを意識している。 学習の方法や理解の仕方は児童によって異なることを意識している。 児童の性格や学習に対する意欲等を把握している。 学習集団の特質や、個と集団の関わりを把握している。 個々の児童に対して、指導上配慮すべき事項を把握している。 	<ul style="list-style-type: none"> 生活科に関する児童の既習事項における気付きの実態などを把握している。 学習対象（自然・社会・自分）に関する児童の興味・関心、意欲等を把握している。 児童の生活技能の定着状況や生活圏について具体的に現状を把握している。 幼児教育との連携の視点から、学区における保育園や幼稚園との関連を図り、入学当初のスタートカリキュラム（合科的・関連的な指導）を工夫するための情報収集を行っている。
教科内容に関する知識・技能		<ul style="list-style-type: none"> 地域の素材や活動の場に関わる知識、探究するための態度・技能を持っている。 生活科の9つの内容には、「学習対象・学習活動」「思考・認識」「能力・態度」の3つの要素が組み込まれていることを理解している。
目標の設定	<ul style="list-style-type: none"> 学習は、児童自身の主体的・探究的な活動によって成立することを理解している。 学校の教育目標や課題を踏まえ、育てたい力を捉えている。 学習を通して児童の自信を深め、自己肯定感を高めるという意識を持っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習指導要領の目標及び単元の指導目標を明確に把握し、観点別評価規準の評価の観点に照らして捉えている。 各授業の指導目標を生活科における単元の指導目標に明確に関連付けている。
単元計画 (授業計画)	<p>(学習指導案の作成)</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習指導案の重要性や、目標、内容、方法等の指導案の形式の意図を理解し、指導計画を表現している。 <p>(評価計画)</p> <ul style="list-style-type: none"> 具体的な到達目標とそのための適切な評価方法を選択・計画している。 自己評価、他者評価等、児童が学習を改善するための手だてを考えている。 	<p>(単元計画の作成)</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習指導要領の目標及び学年の目標を達成でき、児童が気付きを質的に高めることができる単元計画を作成している。 児童の思いや願いの実現に向けて、指導内容に重みを付けたり、配列を工夫したりするなど、単元計画を作成している。 <p>(評価計画)</p> <ul style="list-style-type: none"> 指導目標に照らした評価計画を作成している。 単元全体を通して、児童の変容や成長の様子を捉える長期に渡る評価計画を作成している。
授業の構成	<p>(学習方法・形態の選択・組織)</p> <ul style="list-style-type: none"> 目標を達成するために、児童の実態を踏まえた適切な学習方法や学習形態を考えている。 新たな知識・技能・学び方等を発見したり、習得したりする喜びを実感できる授業を行うために、学習方法を改良・開発している。 主体的な探究活動や問題解決を考慮して、授業を組み立てている。 児童が学習内容や学習の過程を振り返るための手だてを考えている。 	<p>(学習内容の構成)</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科の体系における位置付けや単元の指導内容を理解した上で、学習内容を構成している。 単元の指導内容が教科の体系の中でどのような位置付けにあるのかを把握して単元を構成している。 「言語活動の充実」を意識して、単元を構成している。 作品を蓄積したり、授業を振り返ったりするなど、児童自身が取組を評価するための活動を組み入れている。 <p>(教材・題材の選択・構成・開発)</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童の身近な生活圏を活動や体験の場とし、単元を構成している。 単元を、自分自身で改良・開発している。 <p>(板書等の計画)</p> <ul style="list-style-type: none"> 本時のねらいに即し、授業展開を予測した板書を計画している。 本時のねらいを達成するための有効な働き掛けや個への支援を計画している。

D (展開)

要素 力	学習指導力 (授業における姿勢や指導方法等、 各教科等共通の授業づくりの力)	教科指導力 (生活科の内容に関わる授業づくりの力)
学習環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> 学習環境が、児童の安全や認知にどのような効果を与えるかを意識している。 	<ul style="list-style-type: none"> 教科の目標や内容に応じて、児童の行動や気付きを推測し、安全や安心に配慮した学習環境を創造している。 児童の活動内容や活動の場の多様性に応えるために、校内協力体制や、保護者や地域の人々との協力体制をつくっている。
学習への構えや学び方の指導	<ul style="list-style-type: none"> 児童がどのような姿勢で学習に臨めばよいかを明確に示し、児童に意識させている。 学習過程や自分の考えをまとめていけるようなノートづくりを指導している。 	<ul style="list-style-type: none"> 生活科の学び方を示し、児童に意識させている。 生活科の学習に関わる考え方やまとめ方、資料活用、必要な技術等の定着を図っている。 気付きの質を高めるために、見付ける、比べる、たとえるなど多様な学習活動を工夫している。 具体的な体験を振り返り表現する機会や伝え合い交流する場を工夫したり、試行錯誤や繰り返す活動を設定したりして、児童の多様性を生かしている。
個や集団への配慮	<ul style="list-style-type: none"> 個への対応に具体的な配慮をしている。 集団における学習の大切さや、個の発言の集団への影響を意識している。 	<ul style="list-style-type: none"> 一人一人の活動を支援し、指導するための体制を構築している。 時間、空間、精神的なゆとりを保障することで児童の多様性を生かしている。
音声・表情・所作等	<ul style="list-style-type: none"> 話し方や表情・所作と児童の反応との関連を意識している。 場面や目的、環境等に応じて、声の大きさ、話の速さ・緩急・強弱等の話し方や表情を工夫している。 	<ul style="list-style-type: none"> 活動場所の環境を考慮して、話し方、声の大きさなどを工夫している。
指導技術	<p>(言葉遣い)</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童の発達の段階に応じた適切な言葉遣いをしている。 <p>(説明)</p> <ul style="list-style-type: none"> 分かりやすい言葉で、端的に説明している。 <p>(指示)</p> <ul style="list-style-type: none"> 目的を意識させながら、どんな行動をすべきかを明確に示している。 <p>(発問)</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童が何を問われているか理解できる発問をしている。 <p>(板書)</p> <ul style="list-style-type: none"> 見やすさを考慮し、視覚的に構造化するなど、工夫しながら丁寧に板書している。 児童の様子を観察しながら、板書している。 <p>(演技・表現)</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習場面や教材の特性に応じて、適切だと考える演技をしている。 待つ時間や「授業のやまば」等意識して授業を展開している。 	<p>(説明)</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童のつまづきやすい点を推測し、理解や納得が得られるように支援している。 <p>(指示)</p> <ul style="list-style-type: none"> ねらいや学習内容を踏まえ、必要とする場面で指示をしている。 <p>(発問)</p> <ul style="list-style-type: none"> ねらいを達成するために、児童の思考を促したり、焦点化したりする発問をしている。 <p>(教材・教具の活用、資料提示)</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童にとって、どんな教材・教具・資料がよいかを考え、活用している。(ICTを含む) <p>(動機付け)</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童が活動への意欲を持つように動機付けをしている。 <p>(個への対応)</p> <ul style="list-style-type: none"> 一人一人の児童が当面している個別の課題や共通の課題を捉えることができる。
学習活動における即時的対応	<ul style="list-style-type: none"> 児童の発言や行動を適切に受け止め、達成感、満足感を感じさせている。 学習内容に適した評価法を用意し、実施している。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童の発言や行動の意図を見取り、生活科の内容や学習方法に照らして理由を付けて認めた上で、適切な支援をしている。 児童の様子と授業目標との関係を捉え、高まる児童の思いや願いに弾力的に対応できる。 児童が様々な表現する思いや願いを共感的に捉え、一人一人の多様な学びや育ちを丁寧に見取り、よさを発揮できるように支援している。

C・A (評価・改善)

力 要素	学習指導力 (授業における姿勢や指導方法等、 各教科等共通の授業づくりの力)	教科指導力 (生活科の内容に関わる授業づくりの力)
授業の振り返りと分析	<ul style="list-style-type: none"> ・「指導と評価の一体化」を意識している。 ・授業によって、児童がいかに変容したかについて、絶えず関心を持っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・指導目標に照らして授業や単元を振り返り、ねらいの達成の可否の原因を明らかにしようとしている。
改善に向けた手だて	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導の方法の効果について、意識的・具体的に捉え、指導方法の改善に結び付けようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科指導について振り返り、改善点を具体的にし、授業改善に生かしている。